

部隊概況表

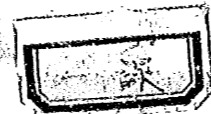
其の二

第四軍	直轄	関係部隊
第三方面軍		
第三十軍		

第四十四軍

昭和27年3月10日

留守業務部(第二課関係)



説 明

一、内 容 区 分

終戦時を基準として実在した独立部隊（軍隊区分により編組された部隊を含む）を戦闘序列を基準とし、軍隊区分を考慮して再整理した。

内容区分は下記の通り。

- | | |
|---|--------------------------------|
| 1. 関東軍直轄（344、岡崎下候を除く）
（一特管の無線探査隊を含む） | 8. 第三十軍 |
| 2. 関東補給部 | 9. 第四十四軍 |
| 3. 第一方面軍直轄 | 10. 北方（千島及樺太） |
| 4. 第三軍（七九師、龍津要塞、混成101連を含む） | 11. 北鮮（344、29師、龍津要塞、混成101連を含む） |
| 5. 第五軍 | 12. 航 空 |
| 6. 第四軍（岡崎下候を含む） | 13. 船 舶 |
| 7. 第三方面軍直轄（一特管の無線探査隊を除く） | |

④ 改編及び転用部隊の概況表は別冊とし南鮮部隊は作製しない又各課別に別冊とした。

二、各部隊の整理番号は一の区分毎に一連番号をつける。

1. 算用数字は軍令及び戦闘序列による独立部隊を示す。
2. 片假名は独立部隊内の小単位で、平時通称号を配当せられたもの。

独立部隊にはあるが、その職員が他部隊の兼務（派遣）のもの及び軍隊区分によつて編成せられたもの等復員処理上本概況表に記載すると
相当とするものを示す。

3. その部隊中を更に細分したものはa, b, c, を用いる。

記載上特に規整した事項

1. 番号は前2項の通り。
2. 所属は軍隊符号を用い略記をした。（ $\frac{144}{722D}$, $\frac{44}{82BS}$, $\frac{44}{738D}$, 岡直補給, 編道内小単位は 岡直連兵）等。

0391
0392

西	善	廣	名	中	仙	東	北	復	配	部 隊 概 況 表 電 布 区 分 表 第 二 課
復	支	支	支	支	支	支	支	支	支	
25	23	21	19	17	15	13	11	1	番	
26	24	22	20	18	16	14	12	10	號	
2	2	2	2	2	2	2	2	10	部 隊 概 況 表 電 布 区 分 表 第 二 課	
	第 二 課 (予備)	第 五 課	第 四 課	第 三 課	第 一 課	庶 務 課	庫 業	各 世 係 課 (毎 及 授 課 課)	配 布 先 番 號	
	266	221	210	180	142	127	125	27	番	
	300	265	225	209	177	141	128	124	號	
	35	40	16	30	38	15	2	95	部 隊 概 況 表 電 布 区 分 表 第 二 課	

0391
0392

表すと

3. 部隊固有名称は略記することなく正しく記載した。

例、第122師団制毒隊、工兵122連隊、63師団工兵隊

4. 通称号は肉戦時に於ける平時及び戦時通称号を併記した。

通称号を昭和20年以降変更した部隊は摘要欄にその旨註記した。

5. 隊長官氏名は肉戦時の隊長名を記載し、肉戦前に隊長が変った部隊はその旨摘要欄に註記した。

6. 充足人員は部隊資料にもとづく肉戦時における部隊の充足人員を記入。

7. 現地応召は昭和20年における現地入隊（現名）者数を記入。

8. 肉戦時の位置は主力の所在した地点に○をつける。

9. 戦斗による損害の程度には戦斗状況の調査を必要とする部隊には○印をつけると共に戦斗損耗の概数を記入する。尚ほ充足人員に対する％を記入。

10. 現地解散をしたもの又は離隊者の比較的多いものはその概況を簡単に記入。

11. 收容所欄には損耗多発の收容所には○印をつけた。

尚ほ入所人員の概数を記入した。

12. 地点面の調査を重視する必要があるものはその点該当欄に○印をつけた。

13. 留名欄には当該部隊の留守名簿のあるものは○印を又編成基幹部隊の留守名簿のみのものはその部隊名を記入。

14. 摘要欄に記入した事項

イ、死亡推定場面

ロ、配偶の關係

ハ、秘匿名

ニ、分派者、入院患者の概数

ホ、その他調査上参考となる事項